

がんセンターたより

i-ROCK (アイロック) の重粒子線治療開始

放射線治療部長 中山 優子

2015 年 12 月 15 日、神奈川県立がんセンターの重粒子線治療施設 i-ROCK で重粒子線治療がスタートした。晴れて、日本で 5 番目の重粒子線治療施設となった。2005 年に神奈川県との取り組みとして、「がんへの挑戦・10 年戦略」が策定され、その中で神奈川県立がんセンターの総合整備の一環として重粒子線治療装置の導入が計画された。まさに 10 年越しの夢が現実のものとなった。

i-ROCK の特徴として、世界初のがんセンターに併設された重粒子線治療施設であることが挙げられる。また、他施設に比べて交通の便がよいので外来通院に適しており、羽田空港にも近く海外からの患者紹介も見込まれる。放射線治療部として X 線治療部門も充実しており、最適な放射線治療を提供することができる。また、放射線医学総合研究所（放医研）が開発した最新の照射技術である高速三次元スキャンニング照射法を取り入れた。独自に治療室全 4 室に自走式 CT を設置し、さらなる高精度な治療をめざしている。

まさに“メスを使わない手術”のような優れた特性を持つ重粒子線治療であるが課題も多い。大規模な施設が必要で建設費・維持費とも高額であり、先進医療費として 350 万円と高額にせざるを得なかった。2016 年度の診療報酬改定で一部の保険収載が検討されているが、エビデンス創出に向けて All Japan での取り組みが我々に課された。がんセンターは将来その牽引役を担うべく、今は一歩ずつ着実にそして安全に治療を進めているところである。

最後にタイトなスケジュールでありながら予定通り治療が開始できたのは、偏に放医研各位の全面的な協力のおかげであることを申し添えたい。



2015 年 12 月 5 日 重粒子線治療開始に先立って行われた重粒子線治療棟開棟式の様子（中央：黒岩神奈川県知事）



治療の様子



治療室内にて

「化学療法を乗り切る 栄養・料理教室」

化学療法は、嘔気、味覚変化、口内炎などで、食事が摂りにくくなることがあります。このような時は、入院患者さんであれば、栄養士は、低臭、低刺激の料理に変更するなど食事を工夫することで、食べるきっかけ作りをします。

外来化学療法患者さんは年々増加しています。食事が摂れず不安に思う方もあるでしょう。そこで、これまで入院患者さんで培った「食事の工夫」についてをお伝えしたく、平成 26 年から外来化学療法患者さんを対象とした、栄養・料理教室を開始しました。

現在は毎月 1 回開催し、テーマを決め、ミニレクチャー、簡単料理のデモンストレーション、試食、食事不安について意見交換を行っています。

がんセンターオリジナルレシピ



参加者からは、「食の工夫に希望がわいてきた」「心強い」などの感想をいただいています。不安そうな面持ちで参加された患者さんが、笑顔で帰られると、治療に立ち向かう患者さんのお手伝いできたのかなど、教室開催の意義を微力ながら感じています。(栄養管理科 管理栄養士 小池美保)



「膵臓がん・胆道がん教室」について

神奈川県立がんセンターでは、がんの専門的治療を行うだけでなく、総合的に患者さんやご家族を支える取り組みをしています。

その一環として、膵臓がん・胆道がんで抗がん剤治療を受ける方を対象に、「膵臓がん・胆道がん教室」を開催しています。この教室では、安心して療養をしていただくために、病気や治療、それに伴う食事や生活に関する情報を発信しています。

当院におかかりの方だけでなく、当院以外で治療を受けている方もご参加いただけます。ご家族だけの参加も可能です。教室は次のように 4 つの内容を一つのシリーズとして構成していますが、すべてに続けて参加できなくてもご参加いただけます。

開催場所は、神奈川県立がんセンター病院棟 1 階「情報コーナー」です。教室は繰り返し開催しており、詳細は当院ホームページに掲載しています。または、下記へお問い合わせください。(緩和ケア・患者支援部 患者支援センター 相談支援担当科長 清水奈緒美)

患者支援センター (直通電話) 045-520-2211

内容	担当者
病気と治療	消化器内科医師
食事と栄養	栄養士
がんと暮らし	MSW (医療ソーシャルワーカー) がん性疼痛看護認定看護師
化学療法と副作用	がん看護専門看護師 リエゾン精神看護専門看護師

市民公開講座



呼吸器内科部長 山田 耕三

「肺がんと戦うために」について

呼吸器内科は今年 3 回目の市民公開講座でしたが、今回は聖マリアンナ医科大学横浜市西部病院の呼吸器内科と共同開催しました。

この市民公開講座は「肺がんの正しい知識、最新情報、がんセンターと西部病院の現状報告」を目的に、本年から両病院共催 + 瀬谷区の共催という形で開催いたしました。今回のキャッチフレーズとして「肺がんと戦うために」と標榜し、肺がんの診断、内科治療、外科治療、リハビリ、両病院の特徴を一般の皆様にご覧いたしました。

近年、肺がんの件数は年々増加の一途をたどっています。最近では、若年者から高齢者に至るまで幅広い年齢層に肺がんが見つかっています。当センターではこの 12 月から重粒子線治療 = i-ROCK が稼働するようになり、治療に第 4 の治療法といわれる「免疫療法」が保険に収載され、肺がん治療が新たな転換期を迎えるようになり、今回市民公開講座の開催を企画したものです。171 名の一般の参加者を迎え（半数以上が両病院の患者さんたちだったかもしれませんが…）、最後に講演者が壇上に並んでもらい、事前にいただいた質問に答える公開回答も最後に行いました。非常に盛り上がった、有意義な半日であったと思います。

日時	平成27年12月12日(土) 13時～16時(開場 12:30)
会場	瀬谷公会堂 講堂
内容	以下のとおりです

(神奈川県立がんセンター、聖マリアンナ医科大学横浜市西部病院、瀬谷福祉保健センター 共同開催)

市民公開講座

「肺がんと戦うために」

日時:平成27年12月12日(土)13:00～16:00
場所:瀬谷公会堂 講堂 (12:30開場)
(横浜市瀬谷区二ツ橋町190) 先着400名
対象:肺がんについて知りたい方
肺がんの患者さんおよびご家族 など 入場無料・申込不要

肺がんはガンのなかで最も死亡率の高いガンです。タバコを吸っている人はもちろん、吸わない方にもかかる方がいらっしゃいます。また毎年の検診を受けているからといって安心できません。このたび、がんセンターと西部病院という専門的な医療機関の医師が、共同で、この疾患について講演を致します。肺がんについての正しい知識を学びませんか？どうぞ、ご参加下さい。

【プログラム】
開会の挨拶・司会
聖マリアンナ医科大学 横浜市西部病院 呼吸器内科部長 駒瀬 裕子
1. 肺がんの頻度、原因、診断方法 近藤 哲郎(がんセンター)
2. 肺がんの最新の治療 内科: 檜田直也(西部病院) 外科: 西井鉄平(がんセンター)
3. がんリハビリテーションについて (両病院の特徴について)
4. がんセンターの特徴 齋藤春洋(がんセンター)
5. 西部病院の特徴 山口裕礼(西部病院)
6. 質疑応答(事前にいただいた質問を中心に)
閉会の言葉
神奈川県立がんセンター 呼吸器内科部長 山田耕三

ロビーにて同時開催!
「肺のカゲーム」
あなたの肺の状態を楽しく調べることができます。
東近江総合医療センター 呼吸器内科医長 小熊哲也

共催:神奈川県立がんセンター 聖マリアンナ医科大学横浜市西部病院 瀬谷福祉保健センター
問合せ先:聖マリアンナ医科大学横浜市西部病院 TEL:045-366-1111(代)
総合相談部 地域医療連携係(市民公開講座担当) FAX:045-366-8483



第 15 回国際甲状腺学会

乳腺内分泌外科 岡本 浩直

2015 年 10 月 18 日から 10 月 23 日にアメリカ・オーランドで開催された第 15 回国際甲状腺学会に岩崎先生、菅沼先生とともに参加させていただきました。

学会会場はスワン・アンド・ドルフィン・リゾートというディズニーワールドの中心にあるホテルでした。レセプションにはミッキーがいるなど華やかな雰囲気でした。

当院からは岩崎先生が当院での放射線ヨウ素内用療法不応性甲状腺分化癌に対する Sorafenib、Lenvatinib による治療成績を発表されました。また興味深い発表として、チェルノブイリの原発事故による甲状腺癌の増加と福島における原発事故の現状及び小児甲状腺癌との関連に関する報告がありました。岩崎先生の発表時にも福島の原発事故のことが議論されるなど国際的に関心が高いことがわかりました。

この学会では観光の時間（休止期間）が与えられており、空いた時間でディズニーワールドのテーマパークを男 3 人でてきぱき回ることができました。本場のパレードも見ることができました。

大変貴重な経験をさせていただき感謝しております。

学 会 報 告

AASLD Liver Meeting

消化器内科（肝胆膵）守屋 聡

2015 年 11 月 15 日から 11 月 19 日まで、アメリカ・サンフランシスコのモスコーンセンターで AASLD Liver meeting 2015 が開催され、参加してきました。サンフランシスコはアメリカ西海岸を代表する都市で日本でも馴染み深い場所です。会場はその中心部にあり、ダウンタウンから歩いて行ける距離であり、様々な国際学会や大企業の展示会なども行われる場所です。

今回参加した学会は、名前の通り肝臓病の学会であり、A S C O や E S M O といったがん関連の学会ではないため、肝臓だけでなく肝炎に関する発表も多くありました。特に NASH や PBC といった慢性肝疾患の罹患率が日本より高いため、多くの基礎的・臨床的研究が発表されていました。肝臓領域では C 型肝炎治療もトピックスの一つであり、経口剤によるインターフェロンフリー治療の報告が多くみられました。

今まで国内学会には参加してきましたが、国際学会に参加するのは初めてであり、規模の大きさに圧倒されました。また日本人でも講演している先生もおり、自分ももう少し英語の勉強が必要だと実感しました。



こんにちは！図書室です。



管理・研究棟 5 階に、がんセンター職員専用の図書室があります。

所蔵分野は医学・看護学に関するものばかりで、専任司書 1 名が主に雑誌や図書の管理・他機関からの論文の取り寄せなどを行っています。以前は紙媒体の雑誌ばかりでしたが、現在は電子化が進み、国内雑誌の一部・外国雑誌のほとんどが電子ジャーナルでの所蔵となっています。それでも購入・寄贈も含めて 400 タイトル以上の雑誌があり、毎月 50 冊以上を新規に受け入れています。

司書不在時間帯は施錠されていますが 24 時間利用が可能で、室内には 8 台のパソコンも設置されており、昼夜問わず医師・看護師・コメディカルの方々が利用されています。

直接患者さんに接することはありませんが、ここで扱っているものが病気の治療や研究・看護技術などにつながっているということを常に意識し、陰ながらお役にたてるよう頑張っています。(司書 山田友貴)

「長與又郎賞」ならびに 「朝日がん大賞」を受賞して

臨床研究所 所長 今井 浩三

このたび日本癌学会「長與又郎賞」を受賞させていただきました。授賞理由を拝見しますと、『世界に先駆けてがん関連標的分子を解明するための基礎研究から、基礎研究で明らかになった標的治療の臨床応用を目指すトランスレーショナル研究（TR）に積極的に取り組み、多施設における TR プロジェクトを推進することで、わが国の TR 研究の代表者として TR 研究を牽引されました。また、今井博士は、日本癌学会の副理事長、第 64 回日本癌学会学術会長、第 7 回日米合同癌学会プレジデントを務められ、がん研究の社会還元に対して高い貢献をなされてきました。』などと、過分なお言葉があり、まことに光栄に存じます。多くの共同研究者、同僚、後輩のおかげであり、感謝のほかありません。名古屋市



で開催された第 74 回日本癌学会総会で授賞式があり、受賞講演をさせていただきました。

また、「朝日がん大賞」は、日本対がん協会賞の特別賞として、2001 年に朝日新聞社の協力を得て創設されました。「がん予防」を中心に、がん医療・研究分野、医療機器などの幅広い分野を対象にしています。また、患者・治癒者の活動も視野に入れています。今回の受賞内容は、今井がその初代理事長を務めた「日本がん治療認定医機構」が、長年の「がん治療認定医の育成とがん患者への貢献」を認められ、受賞の運びとなりました。授賞式は、日本対がん協会が主催する「がん征圧全国大会」（今回は、前橋市）の席上、受賞特別講演と授賞式という形で執り行われました。授賞式には、現理事長の平岡真寛教授（京大）とともに出席させていただきました。「がん治療認定医」は、全国で約 1 万 5000 名を数え、当がんセンターにも多くおられます。このような活動が評価されたことを、創設者の一人として嬉しく存じます。多くの関係者に衷心より感謝いたしております。今後、全国におられる「がん治療認定医」が、ますます患者さんのお役に立つ存在として発展されますよう、心より祈念しております。

「神奈川県保健衛生表彰」を受賞して

放射線診断技術科 野川 義昭

この度、平成 27 年度神奈川県保健衛生表彰を頂ける事となり、身に余る光栄であると実感しております。私は昭和 56 年 4 月に神奈川県に入職し、元神奈川県立長浜病院を皮切りに元県立厚木病院、県立足柄上病院、そして県立がんセンターと、5 回の転勤と 3 回の引越しを経験し現



在に至っております。

思い起こせばこの三十数年間、医療機器はものすごい勢いで変貌し周辺環境もペーパーレス電子化が当たり前となり、最新の CT や MRI が増殖するかのよう各病院に配備されました。医療ニーズにより拡張や建て替え計画と共に新装置を設置する、そんな時代を実感してきたわけであります。

現在の県立がんセンターにおきましても新病院建設移転に携わり、何とか収まりがついた事に安堵しておりますが、これまでにご指導を頂きました諸先輩方と同朋の諸兄ならびに関係各位に深く感謝いたしますと共に皆様のご活躍を心よりお祈り申し上げ感謝の言葉とさせていただきます。

手術看護について

手術看護認定看護師 加部 ゆかり

手術室看護師の仕事は一般的に「医師に手術器械を渡す仕事」とイメージされますが、実際は手術器械を渡すだけでなく、患者さんが入室してから退室するまで色々な知識や技術を駆使し専門的なケアを提供しています。また手術には外科医・麻酔科医・臨床工学技士など多職種がチームとなり関わっています。その中で手術が安全かつ円滑に行えるよう調整役も担っています。手術は患者さんの人生の中で大きな出来事の1つであり、これらの経験は、初めてであることも多く患者さん自身がイメージする事は困難です。そこで患者さんが不安なく安全に手術に臨めるよう手術室看護師は術前に訪問しわかりやすい言葉で説明を行なっています。またその際得られた情報から、個別性を重視した看護計画を立案し看護を実践しています。



ボランティア会ランパスによる患者さんのための 3月・4月 木曜ミニコンサート予定表

時間：午後1時30分～2時（約30分）

3月 3日	声楽	長島和美
3月10日	ピアノ	藤牧優里
3月17日	ヴァイオリン	千原友子
3月24日	シャンソン	小池 薫
3月31日	声楽	萩原夏子
4月 7日	声楽	朝倉真弓
4月14日	弦楽アンサンブル	栄ゾリステン
4月21日	ピアノ連弾	井上真紀子 上月早苗
4月28日	フルート ピアノ	市毛里香 佐々木美奈子



平成27年度1日平均患者数

区分	9月	10月	11月	12月
入院	322.8	338.3	347.2	339.8
外来	972.4	973.6	989.3	1040.5

編集後記

新棟開院から2年経ちました。昨年末には重粒子線治療も始まり、「抗がん剤治療」、「手術療法」、「一般的放射線治療」、「重粒子線治療」、「ワクチン療法」と、当センターならではの『がんの集学的治療』が実現しました。最後のページに掲載している1日平均患者数（外来）も平成24年には700人台であったのが、昨年12月には1000人を超えました。職員の忙しさも増していますが、「医療人としての心」を保ちながら「最新の集学的治療」を提供できるように頑張りましょう。（企画情報部長 金森平和）

編集・発行：神奈川県立がんセンター 企画調査室

〒241-8515 横浜市旭区中尾2-3-2

TEL 045-520-2222（代表）

<http://kcch.kanagawa-pho.jp/>

